

指導内容系統表例（社会科、地歴・公民科）

単元「奈良時代」

		小学校	中学校	高等学校
指導内容	学習指導要領に示された内容	・大陸文化の摂取，大化の改新，大仏造営の様子，貴族の生活について調べ，天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起ったことが分かること。	・大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ，その後，天皇・貴族の政治が展開されたことを，聖徳太子の政治と大化の改新，律令国家の確立，摂関政治を通して理解させる。	古代国家の形成と東アジア ・我が国における国家の形成と律令体制の確立の過程，隋・唐など東アジア世界との交流に着目して，古代国家の展開と古墳文化，天平文化などの文化の特色について理解させる。
	指し示す	・8世紀の初め，中国(唐)の都(長安)にならった新しい都(平城京)が奈良につくられた。→基盤の目のように広がる道路で区切られる。 ・有力な豪族が貴族として政治に参加した。	・710年，奈良に唐の長安を手本に新しい都(平城京)がつくられた。→広い道路が基盤の目のように区画された。天皇の住まいや役所がつくられ，市がひらかれた。 ・和同開珎などの銭貨が使われる。 ・都と地方を結ぶ道路→駅，駅馬 ・東北地方に住む人々を蝦夷と呼び，したがわせるための拠点として多賀城などを築く。 ・九州には大宰府を置き，九州の政治と外交や防衛に当たらせた。→九州の南部に住む隼人などを従わせる。 ・国ごとに役所(国府)が置かれ，中央の貴族が国司として派遣される。その下で地方の豪族が郡司に任命されて政治を行う。	・元明天皇のとき，大きな都城が営まれることになり，710(和銅3)年，ここに移った。これが平城京である。 ・唐の都長安にならい，規則正しい道路によって区画され，朱雀大路で左京と右京にわけられ，宮城には内裏・朝堂があり，政治の中心であった。 ・中央集権的な国家体制が整い，国家の富が天皇・貴族に集中した。 ・都を中心に駅制がしかれ，役人が公用のために利用した。官営の市がもうけられた。 ・和銅開珎など銭貨を鑄造し流通を図った。 ・蝦夷や隼人に対する支配を進めた。(多賀城の設置等) ・耕地の拡大や鉱山を開発した。
	おた交	・聖武天皇は，中国(唐)へ使者(遣唐使)や留学生を送り，政治のしくみや文化を学ばせた。 ・聖武天皇は，中国から鑑真を招く。(唐招提寺を開く。)	・唐に遣唐使を送る。 日本→阿倍仲麻呂，唐→鑑真(唐招提寺をひらく。) ・新羅や渤海とも交流を行う。	・朝廷は8世紀にはいると，ほぼ20年に1度の回数で，大規模な遣唐使を派遣した。 ・当時の僧侶はインドや中国で生まれた様々な仏教理論の研究を進めた。 ・苦難をおかして渡来し，戒律を伝えた唐僧鑑真の活動も日本の仏教の発展に大きな力となった。
	基礎的・生活	・人々は，租・調・庸などの様々な税を納めた。 ・都や九州の守りのための兵士の役も務めた。 ・都の外では，多くの人々がたて穴の住まいでくらし，税を納めたが，なかには重い負担にたえかねて，逃げ出す者もいた。(山上憶良の歌)	・人々は，良民(公民)と奴婢などの賤民に分けられる。 ・班田収授法→6歳以上の男女に口分田が与えられる。その代わりに農民は，租・調・庸などの税や雑徭などの労役を負担した。また，防人などの兵役の義務もあった。 ・農民は重い負担に苦しむ。(山上憶良「貧窮問答歌」)→逃亡等→口分田が荒れる。 ・743年，墾田永年私財法の制定→新しく開墾した土地の永久所有を認める。 ・農民の住居→たて穴住居	・それまでの堅穴住居にかわって，平地式の掘立柱の住居が西日本から普及し始めた。 ・農民は，国家から与えられた口分田を耕作する他，口分田以外の公有の田(乗田)を国家から借り，それを耕作した。 ・農民にとって，租・調・庸や雑徭などの労役の負担は特に厳しく，生活に余裕がなかった。 ・生活の苦しい農民は，口分田を捨て，浮浪や逃亡をしたりして律令制の支配を逃れるものが増えた。(山上憶良「万葉集～貧窮問答歌」)
	文化的知識	・中国風の文化がさかんになる。 ・聖武天皇は，仏教の力を借りて国を守ろうと考え，国ごとに国分寺を建てた。また，都には東大寺を建て，金色の大仏をつくった。 ・東大寺正倉院→遣唐使が持ち帰った宝物が納められる。 ・行基→聖武天皇の命令を受けて，大仏づくりに協力，人々のために橋や道などをつくり，仏教を広めた。 ・「古事記」，「日本書紀」の歴史書を完成させる。	・天平文化～聖武天皇のころの仏教と唐の文化の影響を受けた国際色豊かな文化 ・「古事記」，「日本書紀」の歴史書や「万葉集」，「風土記」 ・聖武天皇と光明皇后は，都に東大寺，国ごとに国分寺と国分尼寺を建てる。 ・東大寺→金銅の大仏，正倉院(聖武天皇の愛用品やアジア各地の品々が納められている。) ・行基→民間に仏教を布教し，民衆と共に橋や用水路をつくる。	・平城京を中心に，唐の最盛期の文化の影響を強く受け，国際色豊かで高度な貴族文化 ・国家の形成・発展のありさまをしるすことを目的とした国史の編さん(「古事記」，「日本書紀」) ・地誌の編さん「風土記」 ・聖武天皇が鎮護国家の思想で政治や社会の不安を鎮めようとする。(東大寺や国分寺，国分尼寺建立，金銅盧舎那仏造立) ・「万葉集」～山上憶良らの活躍，万葉がな ・唐にならった写実的な表現(薬師寺吉祥天像，鳥毛立女屏風) ・東大寺正倉院宝物→聖武天皇の遺品(唐や西アジア，東ローマなどの影響) ・仏教と政治が深く結び付き，道鏡のように政治に介入する僧侶が出現 ・行基のように布教と社会事業に尽くした僧侶
育たいたい力	課題を見付ける力 ・大仏造営の歴史的な事象を通して，どのようにして天皇を中心とした政治が確立されていったかについて課題意識をもつ。	資料を活用する力 ・身近な地域に残る遺跡や文化財，各種の基礎的資料を活用し，大仏造営について調べることを通して，天皇を中心とした政治が確立されていったことについて分かりやすく表現することができる。	自ら考え，判断する力 ・大仏造営の歴史的な事象を通して，天皇を中心とした政治が確立されていったことについて多面的に考えることができる。	
活用例	・大仏造営の様子について学習したことを基に，奈良時代の政治や文化の特色についてまとめさせる。	・小学校での大陸文化の摂取や大仏造営の様子などの学習について想起させながら，大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ，その後，天皇・貴族の政治が展開されたことを理解させる。	・我が国における古代国家の形成と律令体制の確立の過程，天平文化の特色を東アジア世界と我が国との関係や遣唐使によってもたらされた文物・制度の影響にも着目して，多面的・多角的に考察することができる。	